

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズクラブ

2019~2020年度 No.244

5 月報

那須クラブ会長 主題

地域につなげ那須ワイズ



強調月間：EF/JEF

今月の聖句

あなたがたは、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。

I ペトロ 4 : 10

・ 5 月第 1 例会

5 月例会は、新型コロナウイルスの影響で中止。

2019~2020年度 主題

国際会長：(IP) Jennifer Jones (オーストラリア)

「より良い明日のために今日を築く」

アジア太平洋地域会長：(AP) 田中 博之(東京多摩みなみ)

「Action!」

東日本区理事：(RD) 山田 敏明(十勝)

「勇気ある変革、愛ある行動!」

北東部長：鈴木 伊知郎(宇都宮東)

「われら北東部、世界のワイズメンと共に前に進もう」

クラブ役員

会長：河野 順子

副会長：村田 榮・田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：藤生 強

ブリテン：田村 修也・村田 榮

5 月例会データ— (出席率：80%)

在籍者 6名 (内 功労会員 1名) 例会出席者 4名

5 月 Happy Birthday

なし

・ 6 月第 2 例会 (役員会)

後日連絡

・ 6 月第 1 例会 ()

後日連絡

5月巻頭言

村田 栄

新型コロナウイルスに負けるな！

皆さんこんにちは。小生が参加していますパソコン講座、吹矢教室の活動は、3月からワイズの活動と同様に中止となっております。皆さんどうされているのかと気になる毎日です。カレンダーの活動予定もすべて空白です。私たちは、不要不急の外出・外食を控え、足腰をかばいながら、90歳を過ぎた両親の介護と畑仕事に精を出しております。草だらけであった畑も少しはきれいになったと自負しております。きれいな畑がいつまで続くやら…（もうこの雨で小さな草の芽が一面に出ています）。両親は、今のところ毎日元気にディサービスに行っていますので、昼間は私たちの時間としてフル活用しています（全国的に見たときにディサービスも休業になっているところもありますが、両親ともにディサービスに行けて有難いです。感謝、感謝）。毎日の生活は、朝起きたら検温。外出時には、マスクの着用、帰宅後手洗い、うがいの励行が欠かせません。

目に見えない新型コロナウイルスの戦いです。ちょっとした気のゆるみが命取りになると思っております。栃木県にだされておりました、緊急事態宣言が14日に解除されてなんとなく気のゆるみがあるように思います。再度気を引き締めていきましょう。

学校活動と経済活動のことを考えれば一日も早い全面的な活動をできることを願うばかりです。その反面、第2波の流行が心配です。

ワイズの活動を東日本区のメールで確認をしますと、ラインでのテレビ会議、チャット、Skype、Zoomを使つてのテレビ会議とかが話題に出っていますが、小生にはそのような装置も・技術もありません。できるとすればメールを出して期間内に皆さんの意見を纏めるだけです。（テレビ会議のこと少し勉強を始めてみる必要がありますね）。繋がるマスク、フェイスシールドの作成等の働きもあります。

那須ワイズの関係しているアジア学院は、2020年度の入学生が29名の予定が入国できない等の理由で10名しか入学できなかったようです。学生のスポンサー団体からの献金で成り立っている学校ですので、収入が減となり厳しい状況になることは明白です。西那須野幼稚園、聖園那須老人ホーム、エルム福祉会等においても厳しい状況下に置かれていることは確かでしょう。私たちのできることは小さなことですがお手伝いできることがあるかどうかの確認は必要でしょう。

新型ウイルス感染者の最前線に立たれている医療関係者にも感謝の気持ちを表せればと願っております。偏見や差別が起きてはなりません。

一日も早いワクチンの開発がされ、通常の生活に戻ることを願います。皆さん～！3蜜を避け、季節の変わり目、風邪などひかないようにし、健康に気を付けて毎日を送りましょう。皆さんにお会いできる日が一日も早くなるよう祈っております。

メンバー通信たより

田村 修也

外出自粛の中で

コロナウイルス感染対策による外出自粛の中で、那須塩原市社会福祉協議会から食糧支援の要請が、西那須野教会や西那須野幼稚園にも入りました。教会も幼稚園もあの3.11東日本大震災支援で北那須各市町村にも緊急避難の方々がお出でになりました。教会も幼稚園も、1998年の夏に那須地域を襲った余笹川大洪水の経験がありましたので、すぐに対応を始めました。私たちも早速インスタントラーメンを取り合えず100食分準備して、教会を通してお送りいたしました。アジア学院でも荒川校長から「これから順次お米を150kgから200kgずつお届けします」というメールが入りました。

2011年3月11日の東日本大震災の時には北那須各市町村にも緊急避難されてきた方々が避難所生活をされました。この方々を支援するために、余笹川大洪水の時の経験が生かされまして、まず体育館やホールが避難所になったのでマットや布団毛布を集めて各市町村の支援センターに届け、順次必要な物が変わっていきますので、その要請に応じて必要な物をお届けする活動に取り組みました。このコロナウイルス感染対策による生活支援がどのくらい続くか分かりませんが、続く限り要請に応える活動に取り組んでまいります。一日も早く終息を願い祈り続けています。

また現在西那須野教会130年史発刊の準備を進めていますが、その資料整理をするなかで、教会、那須ワイズ、那須YMCA、ギデオン教会、合唱団、

ボーイスカウト地域子供会、キャンプ協会、レクリエーション教会等々様々な資料が出て来ました。その中で1997年7月発行の24号のブリテンが出て来ました。その巻頭言に一木慎司会長の「那須YMCA設立総会に思うがあります。少々長文になりますがご紹介いたします。『97年7月は、ワイズメンズクラブの新年度のスタート月であります。前年度まで指導いただいた東部部会を離れ、発展的に9つのクラブが新たにニュー北東部としてスタートします。この記念すべき節目の月でもあります。更に、この時期、栃木県に新たに2つのYMCAのランチが誕生します。一つは、宇都宮YMCA（宇都宮東クラブが支援）です。お互いに地域社会に密着して、支援活動ができる基盤が整った中でスタートする事です。これからは、地域社会に向け、YMCAのプログラムを一つ一つ提案し、具体的に広げていかねばなりません。これからが本番です。この様な状況の中にあって、この私が那須ワイズメンズクラブの会長を預かる事になりました。少し戸惑いもありますが、栃木YMCAの芳賀総主事、藤生連絡主事の指導の中、志を同じく持つ者の集まり、那須クラブ会員のYMCAの維持会員勧誘に、多くの協力して頂ける人が集りました。更に活動の拠点とする場所を、エルム会の楡井兄が快く提供して頂いた事等一挙に設立の機運が高まり、本当に手造りの味とする準備会を体験したことも重なり、「前向きにやるしか無い！」が今の心境です。私はクリスチャンホームで育ったため、幼い頃より大阪YMCAのプログラムにいろいろ影響を受けました。終戦後の苦杯荒廃した中であって、レクリエーション・スポーツ活動を通じ、明るさを教わり、教育・文化面でも大きく育ててくれた事を、今でも思い出します。この地に来て、並木総主事との出会い、塩谷キャンプ場での会合を通じ、県北にもYMCAを！の願望が大きくなりました。それが実現することになったのです。今回の設立趣旨に賛同頂いた、多くの維持会員の思いを精一杯受け止め、那須YMCAの発展と維持継続に向け、支援活動が出来る那須ワイズメンズクラブでありたいと考えます。今後とも皆様のご指導と協力を宜しくお願いします。』

一木慎司兄は2005年度の北東部長で私が書記を仰せつかり、第18回ユースボランティアリーダーズフォーラムを北東部で担当しました。次の年からは各部での開催担当が見直され、現在のようなった。懐かしい思い出です。

藤生 強

那須YMCA 発達支援児グループ活動について

・藤生が担当している発達支援児の2活動（小学生対象、中高生対象）は、2019年度3学期途中より活動を停止しています。2020年度の活動開始は、サポートを頂いている国際医療福祉大学が再開され、感染予防的にグループでの活動が可能と判断されてからとなります。

とちぎYMCA 高齢者施設の様子について

・藤生が勤務しているYMCA特別養護老人ホームは、「介護業務」に加え「感染予防対策」が増えたため、例年以上に忙しい状況です。

・感染予防はウィルスを施設内に侵入させないことが一番の対策になりますので、入居者家族の直接の面会を中止とし、リモート面会（テレビ電話）や窓越し面会などに切り替えています。また紙オムツや日用品など納品も配送業者の入館を最小限にするため、施設玄関口で受取り、職員が台車を使って倉庫へ運んでいます。

・夏になると一旦収束するとの情報もありますが、秋冬になるとインフルエンザ及びノロウイルス対策に加え、新型コロナウイルス対策も取り組むようになるものと考えています。

とにかく早い収束と、ワクチン等の予防薬の早期開発を願うばかりです。

鈴木 保江

最近はどうしてる？

やはり、なぜこんな事になってしまったのかと思わずにいられません。しかし、人は、強いものです。どんな困難にも立ち向かっていくんですね。鈴木家では、家族みんな元気で過ごしています。子供達はずーっとゲームが出来て、体がなまっていることでしょう。散歩にも行かず買い物にも行かずです。生活リズムは、崩れるばかりですが、もとに戻るのも早いのが子供ですね。

私どもは、仕事が、医療従事者で、何も変わらずの毎日です。大変ねと言われますが毎日変わらずなので特に大変さも感じず過ごしています。変わったことといえば、子供が高校生となり、お弁当を作るようになったことです。が、3日作ったところで、学校が休みになり連日のお弁当からは、逃れました。料理は、得意でないためにかたがた頑張れるか今後の課題です。夫は、今月は、三密を避けるため隔日勤務しております。空いた時間に大掃除といったところですね。とにかかにも鈴木家は、大変な時でも変わらず元気でいます。有り難い幸せです。

ワイズの方々ももとの活動が早く出来る事を祈ります。

休みの日々

2月中旬から新型コロナウイルスの脅威が見えてきました。

早速、栃木県のシルバー大学校は休校となり、各クラブ活動も一斉休みとなりました。最近の自分の生きがいは、かつて想定していなかったマジック・麻雀・ウオーキング・卓球等々のクラブの仲間入りでした。今更ながら一生懸命になっているすべてがお休みとなりました。これは、私にとってたいへんな抑制です。ならば、自己研鑽すればよいものを、仲間がいないとやる気の起きない意志薄弱な性格は若いときから成長していません。

2月下旬、神奈川県在住の孫を車（息子と）で迎えに行き、孫の春休みを田舎の当地で過ごすことにしました。当地は、まだまだコロナはよそ事でしたが、マスクを付けて桜や水仙公園で楽しみました。さて、孫を帰そうとした時、東京は流行し始め、昨年12月に重症肺炎を患い、それも東京で肺炎球菌に罹患したと思っているので、東京経由で送って行くわけにいかず、年齢的には私の運転では家族が許しません。ギリギリ、入学式寸前母親に迎えに来てもらいました。また別の孫は、両親が医療者なので一人で50数階のマンションで一日過ごすと言う。10歳だ。迎えにも行けない。このジレンマ。

さて、それから何をすればいいのか。毎日毎日、庭の草むしり。お陰で当時はきれいになりました。そして、テレビや新聞の情報から日本の対応の遅さやPCRの件数の少なさにテレビに向かって怒り、近隣地区に感染者が出、いよいよ我が身の管理に真剣になりました。あろうことか、我が町にも感染者が出ました。もうどこにも行けない。それまでも出かけていなかったけど、もっと抑制がかかると、出かけられないというストレスは高まることを知りました。図書館もダメ、姉妹に頼んで文庫本を持参してもらい、車のドア越しに受け取り、後はアマゾンで新刊書を購入。

一昨日、夏の甲子園、高校野球が中止と。テレビの画面で見る高校球児の涙と共に、家の掃除をしながら一緒に泣きました。この悔しさは無駄にならないなんて言われても、頭に入らないでしょう。今、思い出しても涙が出る。彼らはやるせなさをどこにぶつけることもできない。

それにしても、社会経済も大きなダメージである。首都圏の商店街の多くが家賃は発生する。閉店しているの支払いはたいへんだ。つらいところだ。雇用関係・新採用の取り消し、倒産等々、子どもも大人も

誰もが我慢の時なのだ。

有能な方々も急逝されている。28歳お相撲さんの親御さんの気持ちを察するとやりきれない。このような残酷なコロナが終息してくるのも遠くないと思う。しかし、インフルエンザが毎年猛威を振るう事を考えると、コロナも今回だけでは済まないでしょう。人類の発生から病原菌やウイルスと人間は、追いかっこをしている。コロナウイルスのワクチンもできるでしょう。でも、ウイルスは黙っていないで、それより強い毒性を持つことになって出現するでしょう。他国のこととっていたことは過去のこと。これだけの国際性は、たちまち全世界のものになりましょう。

自己管理が大切であり、行政は危機管理充実が必要であると思い知らされました。

もう、草が生えてきました。もう一度踏ん張ります。

5月第2例会（役員会）報告

日 時：河野会長よりの書面にて開催

場 所：メールによる

出席者：河野会長、田村副会長、村田副会長、藤生書記、平山主事

今回は、新型コロナウイルスを配慮し、会長よりの書面を全員に配布し、それに対する返事をみんなで共有する方法で開催した。

協議事項

1. 5月例会の開催の件

現在の新型コロナウイルス状況の推移を見たところ、例会は中止とする。

2. 6月の第1例会・第2（役員会）例会の件

新型コロナウイルス状況を考えると大変難しい状況にある。もう少し推移を見てから開催の可否について判断する。

3. 第15回とちぎYMCAインターナショナルチャリティーラン2020の件

事務局に確認したところ無期延期にするとのこと。

4. 宇都宮クラブの山田会長よりの提案の件

新型コロナウイルスの推移を見極めつつ前向きに進める。

5. 塩谷キャンプ場に関する件

とちぎYMCAとして、塩谷キャンプ場の使用・維持計画等を尋ねる。那須ワイズとしては、昨年植えた花木の定植。原田ワイズよりお預かりをしている基金の計画をする。塩澤総主事より書面での提出を依頼する。

5. その他

- ・シイタケ昆布の発注は、皆さんよりの必要数を確認。110個の注文をする。
- ・ブリテンの発行は続けていく。
- ・関係団体の状況の把握をし、お手伝いのできることを探る。

旧西那須野（那須西原）の緑と水（第86回）

田村修也

振り返って見ますと、土地を求め、農業に従事することによって生計を立てて行こうとする移住者は、明治14年に5戸、14年には13戸、16年には8戸と少しずつ増えていって、明治18年には36戸と急増して、明治19年には大水路の通水もあって一挙に117戸と、多くの入植者を那須開墾社は受け入れることになりました。

入植者の多くは貧困にあえぐ者が多かったので、そこ生活は極めて厳しいものでした。しかし、人の住むことを拒み続けてきた那須野が原の開拓は、このような人々のひと鍬ひと鍬によって少しずつ切り開かれて行ったのです。

当時の「那須開墾社臨時報告」には、「本社ノ規則ニ於テ移住民ハ各自其力ニ食ム者トシ別ニ之ヲ保護スル等ノ法ナキヲ以テ1ケ年乃至1ケ年半ノ扶食ヲ備フル者ニアラザレバ来テ土着スル能ハザルガ如シ」とされていましたが、那須開墾社としてもこの状況に対処し難かった事情を伝えています。移住者の入植配置は「原野数里の間を縦横に画し、第一区、第二区、第三区、第四区、二つ室の区の五区に分ち、第一区中一本木および二つ室区を最先として漸時各地に移住せしめたり。」とあります。また、移住民のために土地の付与も段階を付けるなどをすると共に、明治17年からは桑苗1万2千本を配布するなどして指導にも尽くしています。

明治18年（1885）1月19日に那須開墾社は、開拓成功地176町2反歩の払い下げを受けて、那須野村という新村を創設しました。この年には大水路通水、郵便局開設、前年度の国道4号線の開通に続いて、通称縦道（千本松、一区間の直線道路で関東地方の三角測量の基線となった10.8kmの道路）が、また大田原より一区を経て野崎に通じる振動（日光北街道）が開通し、明治19年10月には、鉄道的那須野停車場（西那須野駅）が開業されるなど、道路や社会的な機関が設置され、様々な活動が開始され始めました。

明治19年（1886）年那須開墾社は、事業の拡大に伴って、三区の烏ヶ森の西側麓に社屋を建築

し、第2農場を呼んで、従前の一本木農場を第1農場と呼ぶようになりました。3月には事務所を第2農場へ移転し、従業員21名もこちらに移りました。第1農場には安藤治輔さんが残って管理に当たりました。

印南文作さんにとっては遠く佐久山宿のご自宅からの通勤は何かと不便に重ねて、健康がすぐれなかったので、国道4号線と縦道との交差点北側の三区地内に住宅の一部を移転することになりました。間口8間、奥行5間、8畳4間の台所のついた家屋が出来上がり、10月15日に移り住みました。トメ夫人は佐久山宿の家族のこともあって、三区との間を行き来して家事に努めました。

55歳になった印南文作さんは、長年の辛苦の業務によく耐えてきましたが、生来の持病がだんだんと進んでいきました。当時の健康状態を伝える記事が農業日誌に残っています。「19年4月30日、晴れ、本日印南社長是まで永々病気の処久々に来社、第2農場に至る。19年6月28日、晴、印南社長病気快方に付第2農場に来社なる。」しかし、その後も健康状態は思わしくなく、憂慮されていました。その上那須開墾社にあっては、本社を移動するような状況のなか、隣接する肇耕社はその所有地991町歩を三島家に譲り渡して解散し、三島農場の創設となりました。（以下次号へ続く）

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園
園長・理事長 福本 光男

「新型コロナウイルスに感染されて病床にある方のご回復、医療関係者や感染対策のために労されている方々に感謝し、ご健康を祈ります」

子どもたちも保護者の皆様も、ステイ・ホームが長く続き、公園も閉鎖されている環境で、大変な日々をお過ごしのことと思います。早く普通の生活に戻れることを願っています。

さて、皆様ご承知のように新型コロナウイルス感染が世界的に蔓延しています。また、その影響は多岐にわたります。人類は正解のない時代を実感しています。これから子どもたちは、別な意味での正解の無い時代(※1)を、その時その時の適解を求めていく生き方が要求されてきます。これから必要となる能力は、学力だけではなく、それ以外の非認知能力(非認知スキル)といわれるものです。具体的には、折れない心(レジリエンス)、自己統制力(感情・意思・行動)、価値観の違う人たちと一緒にやり遂げる

力が大切といわれています。

地域における、子どもたち同士の遊びが無くなった今、非認知能力基礎を培う土台としての遊びが、幼稚園に求められてきています。本園も子ども達のよりよい未来を考えて、行事の見直しも含め、本園の教育要領の内容を改訂しているところです。

しかし、今年度の場合は、自主休園・縮小保育が続いているなかで、集団での遊び時間の量が確保できない状況です。コロナウィルス感染状況を見ながら、少しでも多く子どもたちの遊び量と質を追究することを主眼に、行事等の変更をしているところです。目下のところ、6月末までの行事は行いません。ピクニックは秋に延期します。子どもたちの園生活の1つのまとめである年中・年長組の運動会は中止とし、学年毎または学年を分けて親子のスポーツ・デイを考えています。これらも、コロナウィルス感染状況によって変更もありますので、ご了承下さい。

ところで、5月1日(金)には、フードバンクへの支援につきまして、急なお願いにもかかわらず、保護者の皆様から沢山の食料品の提供をいただき感謝申し上げます。同日夕方、スタッフの分も合わせ、那須塩原市社会福祉協議会の柴田様に取りに来ていただきました。社協には、当日午前中だけでも、30人位の方が生活相談や小口資金貸し付けの相談にいられたそうです。一刻もはやく新型コロナウィルスの感染が終息し、地域経済が復興されることを願います。

また、同日、卒園生の保護者で保育園評議員の佐藤正人様から保護者の皆様へと、花や野菜の苗約200鉢の寄贈がありました。学年毎に分けて園だより登園の際、ご希望の方にお渡しできました。心が和むプレゼントを感謝申し上げます。私からは絵本を園児1人1冊プレゼントしました。

更に同日、北関東環境開発社長、奥田美弘様(卒園生保護者)より、那須地区幼稚園連合会にマスク4,500枚の贈呈が本園会場でありました。

最後に、「こころ・健康電話相談」、「法律関係相談」を気軽にご利用下さい。

※1「2011年度にアメリカの小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」(キャシー・デビッドソン氏 ニューヨーク市立大学教授の予測)

「今後10～20年程度で、アメリカの総雇用者の約47%の仕事が自動化されるリスクが高い」(マイケル・A・オズボーン氏 オックスフォード大学准教授)

(しらゆり 2020.5.15 加筆修正)

アジア学院たより

学校法人 アジア学院

校長 荒川 朋子

自然からのメッセージ

「今、自然は私たちに対し、自然を制圧するなど全く人間のおごりだと大きな声で語りかけています。自然を制圧するという人間の欲望は、人間が自然とは分離しているという信念から来ています。この二元論的な考えこそが問題の根源なのです。人間は、他のあらゆる生物がそうであるのと同じように、自然の一部です。ですから、自然と調和的な対話をしながら生きることは今緊急に必要とされていることで、私たち人間がこのコロナ危機に学ばなければならない最初の教訓です。」

これはインド人のエコロジストのサティス・クマールの最近の言葉です。彼はまた自然がこのコロナ危機を通じて私たちに強烈なメッセージを送っていることを受け入れなければいけないとも言いました。「これは自然の発するモノローグ(独白)です。自然は応戦しているのです。」とも言いました。そしてこう続けます。「生物多様性を消滅させる原因となってきた人間の否定的な活動、例えば気候変動の起こさせている二酸化炭素や地球温暖化ガスの増加、公害、大地の汚染、熱帯雨林の破壊等は結果を伴います。コロナウィルスはその結果かもしれません。」

アジア学院で自然の恵みを受け、有機農業を基盤とした生活と研修を行う私たちは、生きとし生けるすべてのものがすべてつながっていることを理解し、日々実感しています。その観点からは、コロナウィルスのような新種のウィルスがなぜ発生したのかを理解するのはそう難しくありません。すべて生きるものは、動物も人間も、ウィルスもバクテリアも微妙なバランスと多様性を保ちながら共生しています。しかし森林を開き、種(しゅ)を破壊し、人間中心の文明を作り発展させていくことによってこの微妙なバランスが崩れ、それが人間にとって病原性の高い新しい病気を発生させるきっかけを与えてしまいます。エボラ出血熱の発生の原因は西アフリカの急速な森林破壊に関連すると言われていました。コロナウィルスもまた、森林破壊によって生息圏が破壊されたコオモリに起因すると言われていました。しかし、こういった事実はあまり議論されません。私たちの目に日々飛び込んでくるのは、世界中の人間社会の悲惨な現状です。しかし、(アメリカが中国を責める以外に)なぜそもそもこの病気が広がっていったのか、このことから何を学ぶべきなのか、そして人

間は同じようなことを起こさないためにどう変わるべきなのかという根本的なことは話されません。

創世記の2章には、神が人間にすべての生き物を管理する責任を与えられたことが書かれています。これは神が人間に与えた最初の責任で、同時に最も重い責任です。しかし人間はずっとその責任の完全な遂行を怠ってきました。最初で最大の命に従うことができなくて、私たちはいったい他のどんな掟に従うことができるのでしょうか。なぜ人間は歴史から学ぶことができないのでしょうか。「母なる地球は泣いています。」「地球が応戦しているのです。」とサティシュ・クマールは言います。少なくとも私たちは今しばし立ち止まって、本来自分らが管理責任をもつこの母なる地球の声を聴くべきではないでしょうか？現に私たち人間は世界中で活動を自粛させられています。世界同時にこのような事態に陥るのは、おそらく歴史上初めてのことでしょう。この時間というのは、母なる自然の、そして神の声を静かに聴くために与えられた時間なのかもしれません。

コロナ後は世界が大きく変わると多くの学者が言い始めています。インド人の環境保全運動家であるバンダナ・シバはこう言います。「未来はひとつの地球に住む人類の一体感にかかっています。すべての人間は生物多様性と健康においては切り離すことができません。コロナ危機は分離、独占、欲、病気に代表される機械的で産業的な時代から、地球という惑星の文明に基づくガイアの時代へとパラダイムシフトする新しい機会を作り出します。私たちはひとつの地球家族で、私たちの健康は生態系の関係性、多様性、再生そして調和に根差しているひとつの健康を共有しているのです。」

YMCAだより

【新年度のご挨拶】

日ごろよりYMCAの諸活動にご理解、ご協力を頂き感謝申し上げます。新年度（2020年度）がスタートしました。2020年度那須YMCAに関わるスタッフの紹介をさせていただきます。

那須YMCA全般：藤生 強（ふじう つよし）※ワイズ担当主事、スマイリークラブ

平山 雄大（ひらやま たけひろ・のりしおリーダー）※英会話教室、地域活動、西那須野幼稚園委託事業（運動遊び・サタデークラブ）児童野外活動、ユース活動など

英会話教室：小野寺 温代（おのでら あつよ・でらっちリーダー）

英会話教室補助・事務：村上 尚子（むらかみ なおこ）

英会話講師：Christina Ajong Fonge（クリスティーナ）Alex Warren（アレックス）Henry Tsue（ヘンリー）

今年度も引き続きどうぞよろしく願い申し上げます。

【新型コロナウイルス感染症対応について】

・YMCAプログラム（英会話、健康教育、野外教育、シーズンプログラム）は5月ゴールデンウィーク以降の再開にむけて、プログラム準備を行っています。

・那須YMCAは、体育クラス、英語クラス、サタデークラブなど5月16日までの期間で講師派遣を中断させていただきました。

【西那須野幼稚園運動遊びをZoomで開催】

5月16日まで那須YMCAにおける講師派遣は中断になりましたが子どもたちに少しでも体を動かす時間を提供できるようにWeb会議サービスZoomを用いて運動遊びを提供しています。

【YMCAコロナウイルス拡散・感染防止キャンペーン】

はなれていても、つながっています

いまこそ#ポジティブネット

目に見えない新型コロナウイルスは、私たちの生活のどこにでもいます。例えば、握手やハグを控えるのと同じように、人が集まる場所に出向くのを控えましょう。今このような時だからこそ安全で健康に暮らすために自分の思い、他人を思いながら行動しましょう。でも、忘れないで、**安全のために、はなれていてもわたしたちはつながっています**

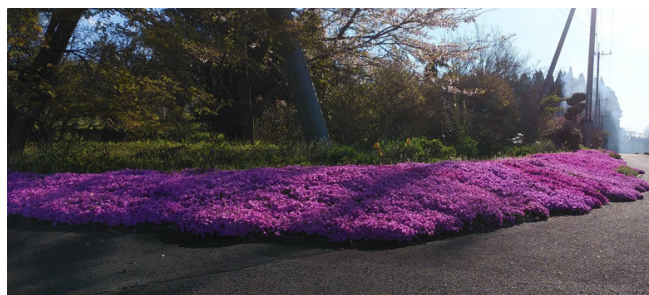
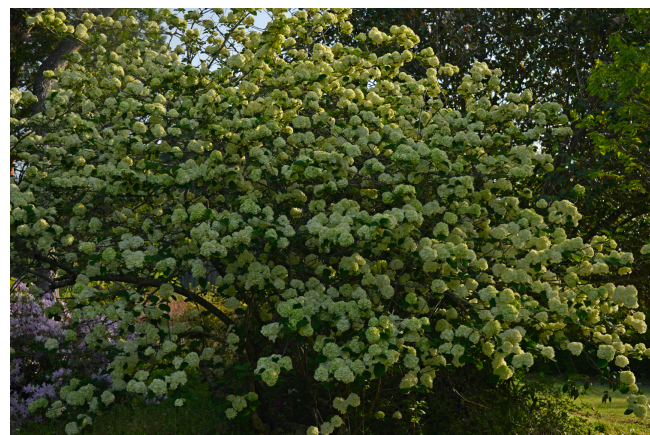
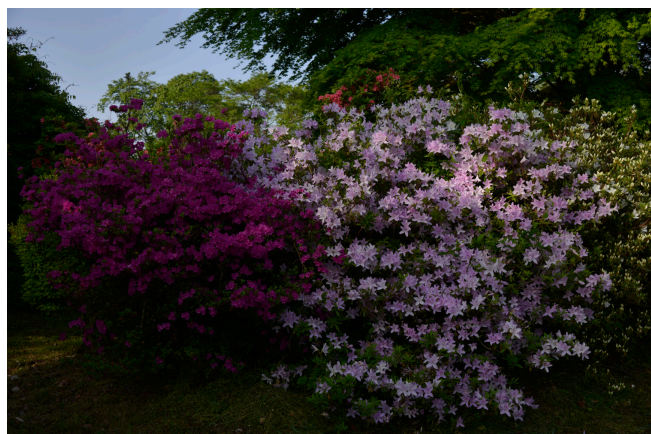


【第15回とちぎYMCAインターナショナルチャリティーラン2020について】

2020年6月28日(日)に開催を予定しておりました「第15回とちぎYMCAインターナショナルチャリティーラン2020」につきましては、新型コロナウイルス感染症の社会的影響を鑑み、皆様の安全を第一として、感染拡大を防ぐため、イベントを無期の延期とさせていただくことに致しました。お心待ちにされていた皆様をはじめ、ご支援を頂いております企業団体の皆様には、多大なご迷惑おかけ致しますことを、深くお詫び申し上げます。なお状況が終息し、イベントの新たな日程等が決まりましたら、改めましてご案内をさせていただきますので、参加、ご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。

【とちぎYMCA・那須YMCAの5月の予定】

- ・5/16(土) 那須YMCA講師派遣中断終了日(予定)
- ・5/2(土) サタデークラブ@箱の森プレイパーク(サイクリング)中止
- ・5/9(土) サタデークラブ@西那須野幼稚園(クラフト)中止
- ・5/16(土) サタデークラブ@西那須野幼稚園(クラフト)中止
- ・5/23(土) サタデークラブ@八幡山公園(アスレチック)
- ・5/30(土) サタデークラブ@八幡山公園(アスレチック)
- ・5/31(日) Yキッズ@生きがいの森 ※休校措置延長のため中止になりました。



編集後記

- ・原田時近ワイズは、退院され、自宅で体力をつけるように過ごされています。皆さんご加糖ください。
- ・写真は新型コロナで暗くなっていますので少しでも明るくと思って掲載しました。那須の4月20日から現在までの風景です。